

一般（代表）質問通告一覧表

令和2年第6回笠岡市議会定例会

9月13日（1日間）

通告者	質問事項	質問の要旨	答弁者
1 讃志会 東川 三郎	1 子供議会について	「将来を担う子供達がどのような笠岡だったら住み続けたいと思うか」といったテーマでの意見を聞く場を設けてはどうか、お尋ねします。	市長
	2 政務活動費の監査について	(1) 監査の対象となった項目、内容についてお尋ねします。	監査委員
		(2) 監査の対象となった事務所経費について、認められている使途基準をお尋ねします。	〃
		(3) 対象となった会派の経理担当者から聴取を行ったと思いますが、どのような聞き取りをしたのか。また、現地調査はどのような状況であったのか、お尋ねします。	〃
		(4) 今回の監査は、令和元年度のみですが、監査の結果、公金として適正なものといえない経費は、合計いくらになるのか。また、返金の状況はどうか、お尋ねします。	〃
		(5) 政務活動費にかかわる地方自治法等の改正に伴い、本市議会も平成27年に笠岡市政務活動費運用指針を策定し、透明性の確保、政治活動の説明責任の向上を図ったはずであるが、何が原因でこのような事案が発生したとお考えか、お尋ねします。	〃
3 新型コロナウイルス関連について	(1) 感染者が出た時の医療体制はどのようになっているのか。また、コロナかもしれないと感じた時、まず一番に相談するのはどこか、お尋ねします。	関係部長	
	(2) 休校が長かったため夏休みの短縮などで対策を取っていますが、学力の低下は見られますか。また、そういった場合の対処は	〃	

		<p>考えられているか、お尋ねします。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い生活保護者が増えるとの新聞報道がありましたが、笠岡市の実態はどうか、お尋ねします。</p> <p>6月議会で否決された配備計画について、新艇の計画があると聞きましたが、新艇なら理解が得られるといった考えでいいのですか、お尋ねします。</p>	<p>関係部長</p> <p>関係部長</p>
	4 救急艇配備について		関係部長
	5 リフォーム助成金、小規模工事について	<p>(1) リフォーム助成金が前年度から20万円から15万円に減額されました。その理由をお聞かせ下さい。</p> <p>(2) 小規模工事の発注はどのようにして業者を指定しているのか。偏りがあると聞いていますが、どのような選定をしているのか、お聞かせ下さい。</p>	<p>関係部長</p> <p>〃</p>
	6 市民病院について	<p>今までの市長答弁では、建てかえやむなし、場所は現在地、規模を縮小し、独立行政法人もしくは、リハビリに重点を置く施設にしていきたい、と私は解釈しましたが、これに相違ないですか、お尋ねいたします。</p>	関係部長
	7 日本遺産について	<p>令和元年5月20日、2市2町で「悠久の時間が流れる石の島」として日本遺産に認定された笠岡諸島のこれからの進む方向性についてお尋ねします。</p>	関係部長
2 公明党 大本 邦光	1 「新しい生活様式」に向けた施策の具体化について	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大によって密を防ぐ「新しい生活様式」を築くため、地方移住を含めたビジネスや経済活動が動き出しています。今後は「新しい生活様式」を定着させるための具体的な施策を笠岡市においても力強く推進し、自律的な地域社会を構築していく必要性があると考えます。</p> <p>政府も、「新たな日常」構築の原動力となるデジタル化への集中投資や社会実装とその環境整備を進めていくとしており、特にデジタル・ガ</p>	

		<p>バメントは、今後1年間で改革期間であるとされています。このことは「骨太の方針」にも示されました。また、内閣府が示した「地域未来構想20」の中では、コロナ禍だからこそできる事業、ピンチをチャンスに変える施策が紹介されています。そこでデジタル化の実施を本市に大胆に取り入れるとともに、オンライン、テレワーク、ワーケーション、働き方改革や移住、企業や学校の休日を見直し、分散化を図ることによって魅力あるまちづくりと質の高い地域社会を築いていくために、具体的な施策の進捗状況や今後の見直しについてお尋ねします。</p> <p>(1) 教育分野において「3密」を防ぎながら、切れ目のない学習環境の提供は重要です。オンライン学習のための端末や機器の整備など、GIGAスクール構想関連事業等との連携、さらには児童生徒・学生や教員が学校・自宅で使うICT環境の整備は急務と考えますが、本市の取組み状況についてお尋ねします。</p> <p>(2) 文化芸術、図書館、公共の施設など、人が集まる空間では、「密」を可視化するためのオンライン情報やアプリなどを活用した予約システムの確立、プッシュ型の情報発信などが「安心」を担保すると考えます。また、文化芸術・スポーツの活動継続に向けた支援についても積極的に推進すべきだと思います。現在の取組み状況と今後の見直しについてお尋ねします。</p> <p>(3) これまで地域コミュニティーを中心に、高齢者・子育て家庭などの見守りや支え合いの社会を築いてきましたが、「新しい生活様式」に対応するため、オンラインツールの活用も重要です。特に介護や福祉分野で</p>	<p>教育長</p> <p>関係部長</p> <p>関係部長</p>
--	--	--	------------------------------------

	<p>2 新型コロナウイルスの第2波に備えた対策について</p>	<p>は、ロボット技術やICT等の導入を用いたケアモデルの支援、個人の健康データの利活用の推進などを図り、健康寿命の延伸につなげていくべきであると思います。こうした課題にどのように取り組むのかを伺います。</p> <p>世界の新型コロナウイルス感染者数は1,600万人を突破し、死者数は64万人を上回るなど、現在もなお、世界中の人々の命と暮らしを脅かしています。世界経済は大きな打撃を受け、我が国においても国民生活や経済への影響は深刻さを極めています。私たちは、感染者の拡大を抑えるために懸命に努力していますが、ウイルスの治療薬やワクチンの開発・実用化までには、なお一定の時間を要することから、克服に向けた闘いは長期に及ぶことが予想されます。こうした中で、今後の感染防止と社会経済活動を両立しながら、第2波、第3波に備えた対策の強化が求められています。例えば、医療提供体制の確保や検査体制の整備、医療機関や介護関係者等への着実な支援の充実を進めなければなりません。</p> <p>(1) 次の波に備え、国が示した基本的な考え方に基づき、医療提供体制の確保を着実に進めることが喫緊の課題となっています。特に、感染者を受け入れる「重点医療機関」の設定を含め、各病院の入院調整や受け入れをスムーズに行うための体制の構築とともに、地域の実情に応じ、必要な空床や宿泊医療施設の確保に取り組まなければなりません。また、不足する医療人材の適切な確保が求められます。本市の見解についてお伺いします。</p>	<p>市長</p>
--	----------------------------------	---	-----------

	<p>3 コロナ禍における避難所運営のあり方について</p>	<p>(2) 医師が必要と判断した人に対して、速やかにPCR検査や質の高い抗原検査を実施することができるよう、保健所、地方衛生研究所等の体制強化が必要です。また、検体採取のために必要な個人防護具の安全的な供給を図るなど、検査体制の整備と充実が求められています。さらに、秋以降のインフルエンザの流行も見据えた検査及び医療提供体制の整備を行う必要性についての見解をお尋ねします。</p> <p>(3) 感染症への感染拡大防止を強化するため、オンラインによる医療支援などの強化についてお尋ねします。</p> <p>近年、大規模地震や大規模水害など、想定を超える自然災害が頻発化、日常化しています。こうした自然災害に対して、避難所を開設する場合には、新型コロナウイルス感染症の影響が広がる現下の状況を踏まえ、感染症への対策に万全を期することが重要となっています。</p> <p>発生した災害や被害者の状況等によって、避難所の収容人数を考慮し、過密状態を防止するため、あらかじめ指定した指定避難所以外の避難所を開設するなど、通常災害発生時よりも可能な限り多くの避難所の開設を図る必要があります。また、避難所における感染症リスクを下げるためのスペースの利用方法など、コロナ禍における避難所運営のあり方について質問させていただきます。</p> <p>(1) 避難所として開設可能な公共施設の活用については、政府の内閣府防災から検討するように徹底がなされていると思いますが、ホテルや旅館等の活用について現状と、例えば、高齢者や基礎疾患のある方、障害者、妊産婦など、優先的に避難させる人を</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>市長</p>
--	--------------------------------	---	------------------------------

	<p>4 重層的支援体制整備事業について</p>	<p>事前に検討し、優先順位の考え方を事前に決めておく必要があります。本市の見解をお尋ねします。</p> <p>(2) 「分散避難」の定着についてですが、「避難とは難を逃れること」であり、必ずしも避難所に行くことではありません。新型コロナウイルスの感染リスクを考えても、「安全な場所に逃げること」を市民に改めて周知する必要があります。災害時に避難生活が必要な方に対しては、避難所が過密状態になることを防ぐため、可能な場合は親戚や知人の家等への避難を検討するよう周知すべきと考えます。その上で、分散避難によって災害物資の届け先が増えるため、どう対応するのか検討策をお尋ねします。</p> <p>(3) 避難所における感染症対策を強化し、避難者に対して手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底するとともに、備蓄物資の充実が必要であります。避難所内の十分な換気やスペースの確保、避難所全体のレイアウト・動線等、感染症対策に配慮した避難所運営のあり方についても、まとめておく必要があります。本市の見解をお示してください。</p> <p>少子高齢化・人口減少が進む中、家族や雇用形態の多様化と地域社会の結びつきの希薄化が同時に進行しています。そのような中、個人や家族が抱える生きづらさやリスクが複雑化し、80代の親が50代の中高年のひきこもりの子供を養う「8050問題」、介護と子育てを同時に担う「ダブルケア」、ゴミ屋敷、虐待、孤独死など新たな課題が表面化してきています。</p> <p>平成29年の社会福祉法改正により、支援体制の整備が努力義務となり、次の3つの支援を一</p>	<p>市長</p> <p>”</p>
--	--------------------------	--	--------------------

		<p>体的に実施する重層的支援体制整備事業が新たに創設されることとなりました。3つの支援の1つ目は包括的な相談支援です。2つ目は、地域につなぎ戻していくための参加の支援です。3つ目が地域づくりに向けた支援です。この3つ目の支援を一体的に行う重層的支援体制整備事業を実施することによって、制度の縦割りを打破し、制度に人を合わせるのではなく、誰も置き去りにしない社会を実現する基盤となる事業と確信します。</p> <p>(1) 既にこれまで250を超える自治体でモデル事業が行われ、来年度からこの事業を実施する市区町村に国が交付金を支給する新たな制度がスタートします。本市としても積極的に取り組んでいくことが必要と考えますが、どう取り組むお考えか、お尋ねします。</p> <p>(2) この新たな事業の成否を左右するには支援を担う人材です。人材の育成・確保、専門性の向上・処遇改善を図り、支援者を孤立させない取組みが必要ですが、本市としてどう取り組んでいくお考えか、また、本市の現状についての認識と合わせて見解をお伺いします。</p>	<p>市長</p> <p>”</p>
<p>3 改革21 藏本 隆文</p>	<p>1 市民の生命、生活を守る体制について</p>	<p>新型コロナウイルスが流行し、世界中で多くの死者が出ている。今生命を守ることの重要性を多くの市民も身近な問題として感じている。</p> <p>このたびは、その中で島しょ部医療体制と災害時の体制、及び新型コロナウイルス対策について尋ねる。</p> <p>(1) 島しょ部の医療については、島の住民の命を守るのが重要であると考えるのであれば、救急艇は患者を運ぶだけであり、島の医療の充実が一番であると考えます。また、</p>	

	<p>2 笠岡運動公園プール事業計画について</p>	<p>日本遺産登録後の島の発展を考えると、島民だけでなく、移住者、観光客にとっても重要課題といえる。その命を守るという使命から、効果的な手法を複合的に行うことが重要と考える。</p> <p>(ア) 市長は、島しょ部医療体制にどのような手法が考えられるのかを尋ねる。</p> <p>(イ) 前回の定例会で、中古の救急艇導入を提案されたが、議会としては性能や金額等において理解しがたく否決した。このたびの予算説明には、救急艇を新造する、とあるがいつ決定したのか尋ねる。</p> <p>(2) 災害時の体制については、何度も具体的な案も提言しながら質問をしてきたが、それぞれの段階における詳細な対応について示されていない。</p> <p>(ア) 避難指示の方法、避難経路の確保、避難所対応はどうなっているのか尋ねる。</p> <p>(イ) 災害時には、行政と市民の役割分担について、明確に示すことが重要であるが、詳細はできたのか尋ねる。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス対策は、生命を守ると同時に、生活を守らなくてはならない。国の施策以外に笠岡市独自財源による施策が水道料金以外に見当たらないが、笠岡市独自の施策はどう考えているのかを尋ねる。</p> <p>前回の6月定例会において、運動公園プール撤去事業において、市議会が求めている今後のプール改築計画を作成しないまま撤去事業を行おうとしていることは、分割工事で無駄が生じることが前々から指摘している。また、新型コロナウイルス対策もあり緊急性は無いため否決した。今使用できるとされている25mプールも</p>	<p>市長</p> <p>〃</p> <p>市長</p> <p>〃</p> <p>市長</p>
--	----------------------------	---	---

		<p>老朽化が激しく、改築は避けられない。これらの点について執行部の考えを尋ねる。</p> <p>(1) 市議会の指摘に回答されていないが、執行部は市議会の指摘はどのように受け止めているのか、尋ねる。</p> <p>(2) 計画しようとしているプールは、どのような仕様形態なのか。</p> <p>(3) 今後のタイムスケジュールを尋ねる。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>
<p>4 笠栄会 妹尾 博之</p>	<p>1 コロナ禍における財政運営について</p> <p>2 救急艇について</p>	<p>前期の選挙公約である、水道料金の値下げ、南消防署の設置等実現されていない公約が多くある。</p> <p>今後、コロナ禍による経済活動の低迷により、税収が大きく落ち込むことが予想される中で、現状のばらまきの財政運営では、財政破綻の局面を想像するのは私だけではないと思う。</p> <p>次の4点について尋ねる。</p> <p>(1) 実現できなかった要因は何であると考えているのか。</p> <p>(2) 公約の実現には強固な財政基盤が重要と考えるが、現状をどのように考えているのか。</p> <p>(3) 市長は、事あるごとにふるさと納税の大幅な増収を強調されるが、コロナ禍の今の状況をどのように捉え、今後の税収への影響をどのように考えているのか。</p> <p>(4) 公約の実現に向けた個々のロードマップ(行程表)及び財源の裏づけ。</p> <p>(1) 救急艇導入ありきでの予算計上なのか尋ねる。</p> <p>(2) 現行の委託方式と導入による直営方式との運営コスト等の比較について尋ねる。</p> <p>(3) 委託先全業者へのヒアリング(継続意思の有無等)結果はどうであったのか尋ねる。</p>	<p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>市 長</p> <p>〃</p> <p>〃</p>

		(4) 直営方式により，民業圧迫にはならないのか尋ねる。	市長
5 創政みらい 大月 隆司	1 財政運営について	<p>10月には新年度予算編成方針が示され，予算編成が本格化していく時期となってきた。</p> <p>今年度は，新型コロナウイルスの対策として矢継ぎ早に国の補正予算が示され，都度，補正予算対応を行ってきた。しかし，今後は財政見通しをしっかりと立て，財政運営の規律，健全化とどのように整合性をとっていくのか，各自治体だけではなく国も含め大きな課題となっている。</p> <p>コロナ対策を含め，今後のあり方について，以下，尋ねる。</p> <p>(1) 財政運営のあり方の基本方針について。</p> <p>(2) 今年度のコロナ対策が，次年度以降の財政にどのように影響するのか。</p> <p>(3) 次年度以降のコロナ対策費の財源について。</p> <p>(4) コロナ対策による，市民サービスの低下の懸念について。</p>	市長 " " "
	2 コロナウイルス感染症の対応について	<p>コロナウイルス感染者が確認された場合の情報管理の考え方について，見解を尋ねる。</p>	市長
	3 公共施設の管理及び跡地利用の基本方針について	<p>今まで，多様な行政需要に対応するために多くの公共施設を建設してきた。しかし，少子高齢化社会の到来と老朽化により，その公共施設は財政を圧迫する形となってきている。</p> <p>現在，平成28年6月に策定した笠岡市公共施設等総合管理計画の基本方針として，ハコモノ施設については，財政状況や人口減に応じて施設総量を縮減するとともに，新規整備を抑制し，施設の複合化と効率化を進めている。以下，尋ねる。</p> <p>(1) 現在の削減目標の達成率について。</p>	市長

